

▶なぜクロマツを植えるの？

クロマツは、潮風に強いので海岸沿いでも育ち、大きくなって海からの風や砂を防いでくれます。そのため、海岸で植樹するときにはクロマツが選ばれています。



▶なぜ東海村の海岸にクロマツ林が作られたの？

明治時代の終わり頃、村松海岸は天然の海岸林がわずかに残るのみで、飛砂を防ぎきれず、海から吹き付ける砂や潮風に人々は苦しめられていました。砂丘化していく危機から村を守るため、クロマツを植樹し、砂防林をつくる挑戦が始まりました。

大正7年(1918)に村松海岸が国の「かいがんさぼうりんぞうせい海岸砂防林造成に関する試験地」にかわたまさる選ばれ、河田杰博士を指導者とし、のべ35年間、約2万3千人という多くの村民の手によって約160haの砂防林が完成しました。その功績は「砂防林造成の碑」に刻まれ、今に伝えられています。



▶クロマツ林を脅かす「松くい虫被害」おびや

先人たちが作り上げたクロマツ林は、近年「松くい虫被害」に苦しんでいます。「松くい虫被害」とは、2種類の虫(マツノザイセンチュウ・マツノマダラカミキリ)が引き起こす、日本各地でマツを枯らしているでんせんびょうマツの伝染病のことです。東海村も大きな被害を受け、その対策を行っています。



令和元年度撮影



令和3年度撮影



令和5年度撮影

東海村 産業部 農業政策課

＼クロマツ林を再生しよう！／

むらまつせいらん

村松晴嵐「クロマツ林」 リジェネプロジェクト

東海村の海岸にはさぼうりん砂防林と呼ばれる、海からの風や砂などから海岸沿いの暮らしを守るために作られたクロマツ林が見られます。そして「村松晴嵐の碑」周辺は、東海村を代表する景勝地として古くから多くの人々に親しまれてきました。

しかし現在のクロマツ林は、「松くい虫」によるマツ枯れ被害で、景観が損なわれています。その現状から脱却するため、しんりんかんきょう森林環境譲与税を活用し、令和元年度より村松晴嵐「クロマツ林」リジェネプロジェクトが始まりました。

タイトルの「リジェネ」には、“ゆるやかな回復”という意味があります。「村松晴嵐の碑」や「八間道路」にクロマツのしょくじゆ植樹を行い、豊かな景観と砂防林の機能をゆるやかに回復していくことを目指しています。



2013年2月撮影

松くい虫被害によって
枯れてしまった
マツ林…。



みんなで
元の姿に
再生させよう！



2019年2月撮影

※森林環境譲与税とは…
温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止等を図るため、森林整備等に必要な地方財源の安定的な確保のためにつくられました。森林整備及びその促進に関する費用に用いられています。

村松晴嵐「クロマツ林」リジネプロジェクトでは、継続的な植樹による砂防林のゆるやかな回復を目的とし、松くい虫に抵抗性のあるクロマツの植樹を進めています。第1期となる令和元年度～令和5年度は、村松晴嵐の碑～八間道路にかけての植樹を進め、無事に完了しました。令和6年度に始まった第2期は、「おいでよ!みんなのクロマツ広場」と題し、村松晴嵐の碑東側の雑木林を整理し、誰もがクロマツに親しめる広場とすることを目標に活動しています。

植樹場所となっている村松晴嵐の碑～八間道路を歩きながら、クロマツ林の再生過程を見守り、その成長や植樹の工夫、松枯れによって受けた影響を学び、海岸沿いの森林環境を体感してみてください。



第1期(令和元年度～令和5年度)

令和元年度～令和5年度は村松晴嵐の碑、砂防林造成の碑及び八間道路に植樹しました。5年間で植樹したクロマツの本数は2111本、植樹体験の参加者は259名に上ります。風の強い海岸部では砂防垣を立てるなど、環境に合わせた作業を心掛け、植樹されたクロマツのほぼ全てが健全に成長しています。

1 村松晴嵐の碑(令和元年度植樹場所)



2 砂防林造成の碑(令和5年度植樹場所)



3 八間道路①(令和2年度植樹場所)



4 八間道路②(令和4年度植樹場所)



5 八間道路海岸部(令和3年度植樹場所)



第2期(令和6年度～令和8年度) おいでよ!みんなのクロマツ広場

村松晴嵐の碑の東側には約3000㎡の雑木林が広がり、景観と砂防林としての機能を損なっていました。

令和6年度から始まった本事業では、その雑木林を伐採・伐根・整地し、誰もがクロマツに親しめる広場として整備することを目標としています。

スタートの年である令和6年度は、54名の参加者と共に、合計700本のクロマツを植樹しました。

6 村松晴嵐の碑(令和6年度植樹場所)

